

目次

第一部 序論.....	1
第1章 目的と課題.....	1
1-1. 起点.....	1
1-2. 「一般的固有名」と自己イメージ.....	3
1-3. 「プラジャ」と自己表象の困難.....	4
1-4. 自己イメージとプラジャ・イメージ.....	6
1-5. 本稿の課題とエスニシティ論.....	9
1-6. スミスの歴史主義と象徴世界の接続.....	11
1-7. 『反復と想起』と3つの体系.....	14
1-8. 象徴世界と「見知らぬ者」.....	15
1-9. 異人表象と世界の秩序.....	18
第2章 4つの象徴世界と4つの位相.....	26
2-1. チンランの世界と位相.....	26
2-2. チョールの世界と位相.....	27
2-3. サールの世界と位相.....	27
2-4. ドウキの世界と位相.....	28
2-5. 4つの位相間の関係.....	29
2-6. 「異人論」と自己イメージ論.....	30
第二部 チンランの世界.....	34
第1章 チンラン.....	34
1-1. あなたは人の肉を食べるのですか.....	34
1-2. チンランの物語.....	35
第2章 肉と狩猟.....	39
2-1. 日常の食事と肉.....	39
2-2. コウモリ狼の夜.....	41
2-3. シャア狼.....	42
2-4. ジャア.....	45
2-5. 肉と狩猟から見た世界.....	47
第3章 肉と結婚.....	52
3-1. 肉と祭.....	52
3-2. 肉と結婚.....	53
3-3. 結婚の条件.....	54
3-4. 妻を娶る.....	56
3-5. 2人で逃げる（駈け落ち）.....	59
3-6. ユクドゥン・ラジャ.....	62
3-7. ショーとチョオバン.....	64

3-8. 「愛」と「ンゴウラン」	66
3-9. ラスを知る	68
3-10. ニンとの出会い	69
第4章 系譜と所有	75
4-1. 家族と父系の系譜	75
4-2. 系譜の起源：始祖の物語	75
4-3. 所有の起源	79
第5章 トンコロ	84
5-1. トンコロの単位	84
5-2. パンデとマーパンデ	85
5-3. トンコロの準備	86
5-4. トンコロの過程	88
5-5. トンコロから現れるもの	92
第6章 魂の旅	97
6-1. キムから天上へ	97
6-2. 地上から地下の下部世界へ	99
6-3. 地下の上部世界から地上へ	100
6-4. 旅の行方と眼差し	102
第7章 チンランとは何か	107
第三部 チョール、サール、そしてドウキの世界	110
第1章 チョール	110
1-1. チョールと森	110
1-2. 森の住人たち-クスンダとチェパン-	111
1-3. ラーマ・ラクシマンの物語	113
1-4. クスンダ	114
1-5. 3人の馬鹿	116
1-6. 村に来たチョール	118
1-7. ラナ専制時代とプラジャの村	119
第2章 サール	125
2-1. 学校のサール	125
2-2. ラナ時代からパンチャーヤット時代へ	127
2-3. 官僚、政治家のサール	128
2-4. 開発とサール	130
2-5. 森林の消滅とバザールの出現	132
2-6. バザールと人びと	133
2-7. 冷めた学校熱	136
2-8. サールへの幻滅	137
2-9. 人びとによる人びとのための開発	142
2-10. サール：媒介から鏡へ	152
第3章 ドウキ	155
3-1. ドウキの世界とサールの世界	155
3-2. 最後まで残された者	156

3-3. ドウキとライフヒストリー	157
3-4. 一方的に話す者への不快感	160
3-5. 「子供が叩かれる」空想と現実主義	163
第四部 結論	170
第1章 4つの象徴世界における「プラジャの存在イメージ」	170
1-1. チンランの世界における「プラジャの存在イメージ」	170
1-2. チョールの世界における「プラジャの存在イメージ」	172
1-3. サールの世界における「プラジャの存在イメージ」	173
1-4. ドウキの世界における「プラジャの存在イメージ」	174
第2章 「プラジャの存在イメージ」と「主体としてのプラジャのイメージ」	178
第3章 二項対立と「市民」	183
引用文献	186